

平成 30 年 11 月 24 日

(公財)日本セーリング連盟 国際委員会

戸張 房子 委員長 様

国際委員会 委員

WS IJ Sub-Committee member

増 田 開

### 2018 年ワールドセーリング年次会議

### Int'l Judges Sub-Committee (IJSC) 会議報告

平成 30 年 10 月に米国サラソータにて開催された見出し会議に出席いたしましたので報告いたします。

#### 1. 会議の日時

IJSC 会議 : 11/5 (日) 9:30 – 18:00

#### 2. 会議出席者

会議には IJSC 委員 (1 名欠席) に加えて WS Race Officials Manager & Executive (書記も兼ねる) が出席したほか、公開議事の間は 10 数名程度のオブザーバが傍聴した。オブザーバが意見を述べる場面もあった。

IJSC Chairman	Andres Manuel Perez Alvarez (ESP)
IJSC Vice-Chairman	A. Lynne Beal (CAN) (テレビ電話での出席)
IJSC Member	Lance Burger (RSA)
IJSC Member	Giorgio Davanzo (ITA)
IJSC Member	Gonzalo Heredia (ARG)
IJSC Member	Kai Masuda (JPN)
IJSC Member	Andrus Poksi (EST)
IJSC Member	Rut Subniran (THA)
( IJSC Member	Iskra Yovkova (BUL) 欠席 )
Race Officials Manager	Madeleine Dunn
Race Officials Executive	Megan Griggs

#### 3. 議事

##### (1) Opening of the Meeting

Chairman による開会挨拶、出席委員の紹介、計報と黙祷。

## (2) Minutes of the previous meeting and Agenda

前回会議の議事録の確認。

## (3) IJ Grouping ※

IJ Grouping の 2019 年更新への応募状況が、上部委員会である Race Officials Committee (ROC) の Chairman から報告された。

※ “IJ Grouping” – ROC が、WS 主催大会での Jury Chairman 等を務める能力のある IJ を“Chief Judge”, “Lead Judge” として、応募した IJ の中から、認定する制度。2017 年に初めて実施され、2019 年に初めての更新が行われる。

## (4) Application Procedures and Requirements

ITO 資格認定・更新のオンライン応募システム

今年導入されたオンライン応募システムについて、Race Officials Manager の Madeleine Dunn からシステムの現状と今後の開発計画が説明された後、IJSC 委員からの質問や要望が出された。議論の結果、IJSC の必要とする機能と照らして当該オンラインシステムは不十分であり、また開発に要する期間とコストの観点からも、IJSC が開発・管理・利用してきた既存のシステム (IJ Report System) をベースとしたシステム開発を、IJSC として提案することとした。

IJ 資格要件

昨年の IJSC で決定された IJ 資格要件の改定内容と、この改定が 2019 年の IJ 資格認定から適用されることが再確認された。その上で、2020 年以降の改定について議論がなされた。その結果、昨年決定した 2019 年からの変更点のうち、最新の 3 つの IJSC reference form が連続して IJ standard 評価であることを IJ 新規認定の必要条件とした点について、見直しの必要性が合意された。

## (5) IJ Renewal Test

担当委員から、オンライン受験システムの運用や窓口業務の状況、合格率などが報告された。

## (6) IJ Report System※

担当委員から、システムの運用状況と、投稿された大会報告の分析結果が報告された。また、システムの改善と拡張、具体的には、IJ 資格認定・更新システムへのデータ共有化による応募者のデータ入力負担軽減についての提案がなされた。

※ “IJ Report System” – 大会 Jury が、大会情報とジャッジ相互評価を WS に報告するオンラインシステム

## (7) IJ Manual

担当委員から、IJ マニュアル 2017 年更新版が発行されたことが報告された。また、今後の改訂についての提案と協議のプロセスが確認された。

(8) IJ Retention

委員長から、過去数年間の IJ 資格者数や地理的分布の推移などが報告された。

(9) Rule 42 Working Party

ROC の Rule 42 Working Party からの活動報告。

(10) Education and Development

担当委員から、IJ セミナー/クリニック の開催実績と予定が報告された。

(11) Use of Technology

テレビ会議システムや小型カメラなどの新しい技術の大会 Jury への導入について、導入例やその有効性や課題などが議論された。

(12) Medal Racing

メダルレースに関する、親委員会である ROC への提案事項の確認。

(13) Insurance for Race Officials

大会に参加するレース・オフィシャルズへの責任保険の必要性について議論された。

(14) Race Officials equipment and travel expenses

昨年 IJCS で議論し合意された、大会主催団体への ITO 旅費精算についてのガイドラインを文書として公開すべきとの見解が再確認され、IJSC として親委員会である ROC に提案することを決定した。

(15) Request for Redress

本件に関しては、Submission がなされていたため、議題(20)において議論することとなった。

(16) Jury policies

Jury policies **※1** の改定案と、新たな公開文書として Scribing guides **※2** の案、が Vice-Chairman から説明され、今後のメンバからの意見集約のプロセスが確認された。

**※1** “Jury policies” – WS がアポイントする大会 Jury のポリシーを記述した文書で、WS ホームページで公開されている。参加選手へのメッセージや、裁量ペナルティーポリシーも含まれる。

**※2** “Scribing guides” – 審問における判決文記述担当者 (Scriber) に向けたガイド。オンライン入力・掲示システムである “Manage2Sail” の使用方法や、記述に用いても良い略語や推奨される用語・文章の例、審問前の準備を含む Scriber の役割と作業手順についてのガイド、などが含まれる。

(17) Event Appointments

Event Appointments Working Party の Chairman からの、WS 主催大会等の Jury を含む ITO の任命のプロセス、体制などについて報告された。

(18) Strategy and Development

今後のジャッジ育成について、育成プログラムのあり方や展開方針などについて議論がなされた。

(19) Race Officials Committee

親委員会である ROC への申し送り/申し入れ事項の確認。

(20) Submissions

今 WS 年次会議で審議予定の Submission のうち、ROC が提案しているもの、及び、ROC が関連委員会となっているものについて議論され、IJSC としての意見が集約された。

(21) Closed Session (非公開議事)

新規/更新の IJ 資格認定、表彰対象者の IJCS からの推薦、IJ Seminar 講師の解任・任命など

以上